



古高だより

自主自立 敬愛和協 明朗端正 勤勉誠実

鹿児島県立古仁屋高等学校
〒894-1508
鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋 399 番地 1
[TEL]0997-72-0034 [FAX]0997-72-0057
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/koniya/>

第7回定期演奏会

11月15日(日)、本校体育館で吹奏楽部による定期演奏会が開催されました。1年生4名、2年生8名の部員が、来年度吹奏楽コンクール課題曲『トイズ・パレード』を皮切りに、映画音楽や演歌、最後には『J-BEST~日本を勇気づける名曲たち』を演奏し、会場に元気を届けました。

マスク着用、検温、連絡先記入など「新型コロナウイルス感染症対策の徹底」や「地域の方々へ日々の感謝を伝える」、「地域の方々を元気づける」を目標に掲げ、部員一人一人がアイデアを出し合い、部員一丸となって準備や練習を行いました。

ご来場くださった皆様、ありがとうございました。



企業見学・郷土研修

11月17日(火)に近畿大学水産研究所奄美実験場に見学に行きました。養殖設備だけでなく、真鯛の稚魚やクエタマ、マグロを間近で見ることができ、郷土の産業を学ぶことができました。餌やり体験では、スコップで餌を正確に投げることの難しさや大変さを実感することができ、マグロの習性や魚の体温など初めて知ることも多く、貴重な経験になりました。



集団読書

11月19日(木)のLHRの時間に、集団読書を行いました。テキストは、ある男性が高校時代に受けた壮絶ないじめの経験を話すという村上春樹の「沈黙」という小説です。

この作品を図書委員が音読し、放送で聞いてもらうという企画でした。この集団読書に向けて、図書委員は放課後に準備と練習に励みました。長い小説を段落で振り分けて、各自で何回も読む練習をしました。当日、緊張しながらも、放送室のマイクの前でそれぞれのパートを一生懸命読みました。その声は各教室に響きわたり、みんな真剣に聞いていました。今回の感想文を読むと、生徒も色々なことを考えたり、感じたりしたようです。これからも読書を通じて視野を広げていってほしいと思います。



大島紬着付け体験教室

11月24日(火)、1年生を対象に本場奄美大島紬協同組合青年部の方から大島紬に関する講義と着付け指導をしていただきました。講義では大島紬ができるまでの工程や柄を学び、繊細な作業であること、とても時間のかかる大変な仕事であることを学びました。また、大島紬の値段を聞き、驚きもありました。着付け体験では、大島紬の軽さや着やすさを実感することができました。今回の学習によって大島紬を初めて着た生徒も多く、郷土の文化を考える時間になりました。



創立90周年記念 第7号

「郷土の高校!古仁屋高校のあゆみ」

リメンバー古高水産!

鹿児島県立古仁屋高等学校の時代①(昭和28(1953)年)~昭和45(1970)年)

現在、古仁屋高校は普通科の高校ですが、鹿児島県立となって以降、昭和29(1954)年に商業科の募集を停止し、別科水産科(2か年制)を併設。昭和30(1955)年には別科家庭技芸科を家政科(3か年制)に移行。昭和31(1956)年に別科水産科を水産科(3か年制)に移行し、普通科を1学級削減。昭和39(1964)に普通科を1学級増やしました。その後、昭和45(1970)年に水産科の募集を停止するまで、各学年、普通科2学級・水産科1学級・家政科1学級の規模を誇る学校でした。昭和31(1956)年度の『経済白書』の序文に書かれて流行語となった「もはや戦後ではない」という言葉に象徴されるように、復興から成長へ舵を切った時代でした。当時、本校も高校卒業後に即戦力として社会で活躍する人材を育てる職業系の学科と、大学などへ進学し、高度経済成長期を科学技術や経済などから支える人材を育てる普通科を併設する高校として歩んでいました。(教頭 吉井秀一郎)



「古高水産と記された浮き輪(昭和29年)」

